

【特別支援学校の部 講評】

二宮 陸生 審査委員（沖縄県造形教育連盟 顧問）

今回は、特別支援学校からの応募もありました。全ての作品が画面からあふれるような元気いっぱいの作品ばかりでした。教師の支援を受けながら、最後までねばり強く取り組んだものと思われます。全体的には、イメージしたことを自由に表した楽しさあふれる作品が多く見られました。一つの作品を最後まで仕上げる作業は根気が必要ですが、教師がクレヨン、インク、ペン、水彩、コラージュ等多様な描画体験をさせ、表現活動を楽しむことに重点をおいた指導の工夫がされていたように思います。

最優秀の照屋至恩さんの作品は色とりどりのクレヨンのタッチと独自の形の組合せによって、リズムカルで楽しげな様子を感じられます。背景を若葉色のトーンでまとめることで全体的な調和も感じられました。

子供たちの表現の衝動は、日常的な体験活動の感動にあります。これからも、植物を育てたり、野山で遊んだりした実体験の喜びをもとに伸び伸びと表現できたらと思います。